

2024年9月8日（日）

日本心理学会第88回大会公募シンポジウム（宗教心理学研究会第21回研究発表会）

：宗教指導者（僧侶、牧師、司祭）が宗教心理学を行う意義について考える

於：熊本城ホール

寺院後継者としてのライフコース選択 における（宗教）心理学との関わり

南山大学社会倫理研究所 研究員
辻本 耐

本発表が提供する話題

2

- 宗教指導者（僧侶・牧師・司祭）が宗教心理学を行う意義について考える



研究者兼宗教者が研究対象である「宗教」を価値中立的に捉えるにはどうしたらよいだろうか？

→ 価値中立的 = バイアスを抑えること

学術的立場

比重として



宗教的立場

- 所属：南山大学社会倫理研究所
- 職名：研究員
- 研究テーマ：自殺対策

- 所属：浄土系の仏教寺院
- 職名：後継者＝現副住職
- お寺は専業

バイアス＝宗教は良いものか？

4

- 宗教的信念や実践と精神的健康との間には有意な関係がある
(Naziha et al., 2016)
 - 宗教への関与は、うつ病、薬物乱用、自殺などの分野における精神衛生の改善と関連がある
(Bonelli et al., 2013)
 - 宗教的信念は、社会的に孤立した人に人生の意味を再構築させ、現実的に安定させる力として機能する
(Chan et al., 2018)
-
- 女性の自立性に対する宗教的制約が、女性の健康を損なう可能性がある
(Berggren et al., 2021)
 - 宗教やスピリチュアリティは精神的健康に肯定的に働くという証拠はあるが、その効果は小さい
(Garssen et al., 2021)

中立的な立場で宗教を研究できるのか？

5

- 宗教のデータで扱う質問には、すでに暗黙的・明示的な宗教の定義が含まれており、それが質問の答えに関連するデータの種類をあらかじめ規定している
(Streng, 2008)
- 研究者が内部者で、その宗教が支配的な地域では、研究者が共有する宗教の利益について、不正確に肯定的な見解が示される
(Bruce, 2015)
- 研究者が内部者である利点は、参加者が開放的になり信頼すること、細部が表面化されることでより深みが増すこと、深みのあるデータをよりよく理解できることである
(Decoo, 2022)
etc.

「宗教」をどのように捉えればよい？

6

- 教義・教団組織・組織内の人間関係など内部の事情を理解している研究者の方が外部の研究者よりも調査を計画したり、結果を解釈したりする際に有利である（はず）
- 外部者であることが価値中立的であることの保証にはならない
- 教育や福祉、臨床場面で行われている研究において、研究者の立場について議論されることがあまりない

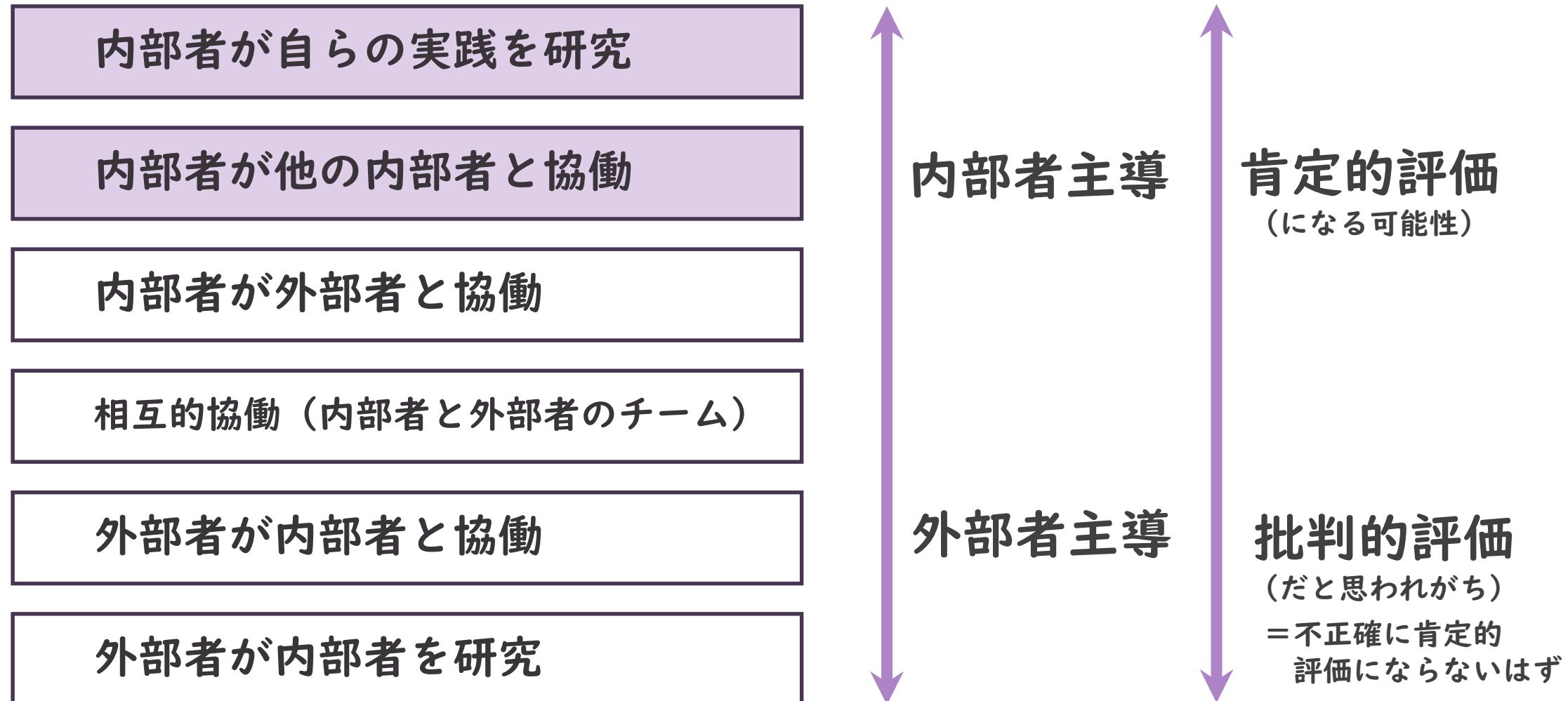


アクションリサーチ

現実の問題を解決することを目指した、または目標となる望ましい状態に向けて変革していくことをを目指して、研究者が対象について働きかける関係をもちながら、対象者に対する援助と研究（実践）を同時にしていく研究
(秋田・市川, 2001; 中村, 2008を参考)

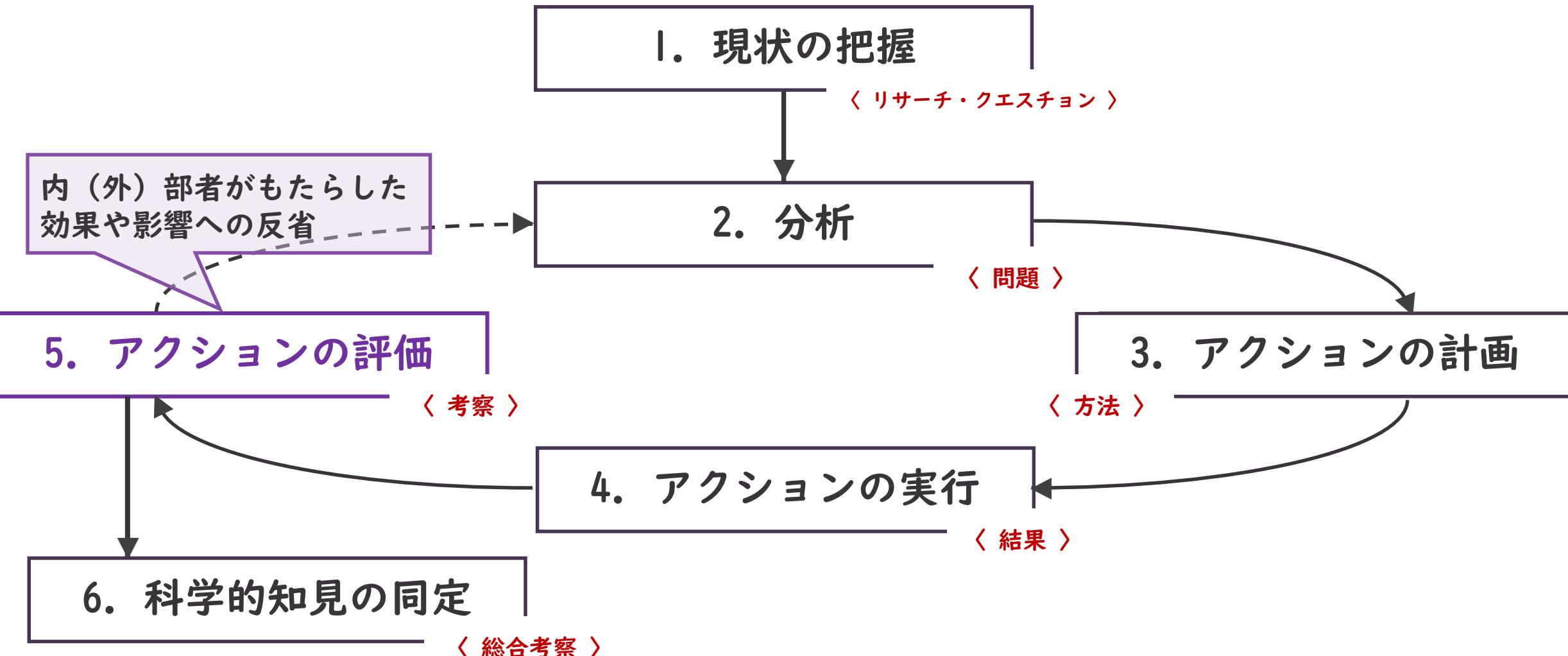
アクションリサーチにおける研究者のポジションの連続体

7



アクションリサーチのサイクル

8



実証的宗教心理学研究において留意すべき点

9

- 宗教心理学の実証研究では、研究者の立ち位置＝ポジションに関する記述や考察はなされない
- 先行研究にはバイアス（不正確に肯定的に評価された）のある研究が混在している可能性がある
- 悲観的にいえば、そういった先行研究を参考に新たな調査・研究を始めると、宗教を肯定的に評価した研究（実際にはそうなのかもしれないが…）を再生産することになる



- 先行研究に対する批判的・冷静な視点は必要
- 自らの信仰や宗教性への内省だけではなく、心理学への関わり方への自覚も必要

宗教指導者（僧侶・牧師・司祭）が宗教心理学を行う意義

- 宗教者が宗教を研究対象とするメリットもある
- 仮説を立てたり、分析結果を解釈したりする際に、それらと自らの信仰や宗教性とを区別できるだけの分別があることが前提

+

- 研究の信頼性を担保するうえで、「考察」において研究者の立ち位置の表明は必要だろうか？

● 引用参考文献

- 秋田喜代美・市川伸一, 2001, 教育・発達における実践研究, 心理学研究法入門 -調査・実験から実践まで-, 東京大学出版.
- Berggren, N., & Ljunge., 2020, Good faith and bad health: self-assessed religiosity and self-assessed health of women and men in Europe, *Social Indicators Research*, 153, 323-344.
- Bruce, S., 2015, A British perspective on the critical sociology of religion: a response to Mary Jo Neitz, *Critical Research on Religion*, 3-2, 206-216.
- Chan, T., Michalak, N.M., & Ybarra, O., 2018, When God is your only friend: religious beliefs compensate for purpose in life in the socially disconnected, *Journal of Personality*, 87-3, 455-471.
- Decoo, E., 2022, Research in the religious realm: intersectional diversification and dynamic variances of insider/outsider perspective, *International Journal of Qualitative Methods*, 21, 1-10.
- Garssen, B., Visser, A., & Pool, G., 2021, Does spirituality or religion positively affect mental health? Meta-analysis of longitudinal studies, *The International Journal for the Psychology of Religion*, 31-1, 4-20.
- Herr, K., & Anderson, G. GL., 2005, *The action research dissertation: A guide for students and faculty*, Sage Publication.
- Bonelli, R.M., & Koenig, H.G., 2013, Mental disorders, religion and spirituality 1990 to 2010: systematic evidence-based review, *Journal of Religion and mental health*, 52, 657-673.
- 中村和彦, 2008, アクションリサーチとは何か, *人間関係研究*, 7, 1-25.
- Naziha, S.A., Norzarina, M.Z., & Mydin, Y., 2016, Religiousness and mental health: systematic review study, *Journal of Religion and health*, 55, 192901937.
- Streng, F.J., 2008, The objective study of religion and the unique quality of religiousness, *Religious Studies*, 6-3, 209-219.

発表は以上です